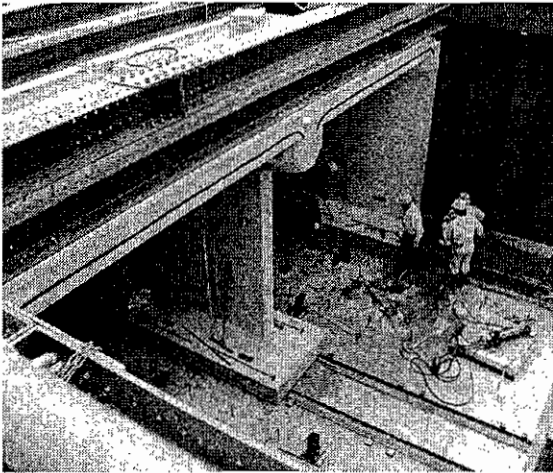


### 鶴見コンクリート

# 伊勢原市で遊水池受注

## ローラースライドS工法で施工 1300<sup>3</sup>mの雨水貯留

鶴見コンクリート(伊藤伸泰社長)は、伊勢原市河川下水道整備課発注の浸水対策事業のなかで、独自開発の地下式雨水貯留施設「プレキャスト遊水池」を受注、同市高森地区にある成瀬小学校クラウンド脇に



1ヵ所の搬入口から部材をスライド施工

ローラースライドS工法で施工している。元請会社は池田建設・幸和建設JVで、7月末完成予定。完成すれば1300立方分の雨水を飲み込み、周辺部の浸水被害軽減をはかる計画だ。伊勢原市では、集中豪雨

の多発や急激な都市化に伴い、道路冠水など浸水被害が頻発しており、雨水幹線整備などを急いでいる。とくに二級河川・歌川流域沿いは、雨水排水能力が不足していることから、河川改修をすすめることも、雨水貯留施設など流出抑制対策に取り組み。また高森地区は過去、浸水被害が発生しており、同市では国の下水道総合浸水対策緊急事業として根幹排水施設整備を実施中だ。

を設置しており、完成後は上部を駐車場に活用する予定。同社遊水池は、工場生産されたプレキャスト部材(コーナーブロック、センターブロック、頂版スラブ等)を現場に分割搬入し、設置予定地内で本体ブロックとして仮組み。それを縦

方向に34個連結していくことで、全長52mに及ぶ遊水池が構築される。縦方向の緊結にはPC鋼棒で締め固めを行い、底版部は最後に現場打ちで構築する。一方、今回の現場は、部材吊り下ろし場所が1ヵ所に限定された。そのため同社考案のローラースライドS工法を適用した。これは専用コ口装置に部材を乗せることで、1ヵ所の搬入口から据付位置まで部材をスライドさせて運ぶことができるもので、曲線運搬にも対応する。仮組みした本体ブロックは、約25tもの重量物となるが、専用コ口装

置と軌道により、2台の電動ウィンチで容易に運搬し作業効率を上げていた。また、本体ブロックの仮組みから据付位置への運搬・据付まで、1ブロック当たり1時間ほどで完了するなど、プレキャスト製品特有の高い施工性を表現していた。同社では、4月15日以下水道新技術推進機構とプレキャスト遊水池について共同研究を完了し、技術マニュアル改訂版を発刊していることから、増加する浸水被害の解消に向けて、同遊水池の拡販を本格化する考え。

1ヵ所の搬入口から部材をスライド施工

同遊水池整備もその一環。小学校クラウンド脇の設置場所は歌川に隣接する低地で、地下水位が高いことから、比重の大きいコンクリート製遊水池で設計。現在、長方形2連構造の遊水池(H=3500mm×1500mm、B=4000mm)